

地区だより

通勤電車の車窓から見える景色も、黄色く実った稲穂や、あぜ道に群生する真っ赤な彼岸花など、秋を思わせる色彩にふと目を奪われる季節になりました。

今年は国の内外を問わず政治、経済、自然など、流行語の「脳みそバーン」に象徴されているように思える出来事ばかり起きています。

幸い、当技師会は順調に勉強会、親睦会と駒を進めてきました。

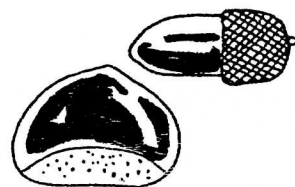
後半の行事にも是非、会員の皆様の御協力をお願いします。

会長 千安 式部



地区委員会報告

- 1 医療職域5団体懇談会が7月23日(火)開かれた
(放射線技師会、臨床検査技師会、理学療法士会、作業療法士会
病院栄養士会)
会長会議
代表者会議 開催される
- 2 社会党県議団92年度当初予算要望懇談会 9月9日(月)開催される
 - 1 4年制大学建設要望
 - 2 生涯学習予算増額
 - 3 会議室 研修室確保 等の要望書を提出
- 3 事務所拡張、支部組織検討委員会の開催
新開、山本、小林、役員経験者、現役員7名出席
事務所拡張資金募金状況
2年度 622万円 3年度 106万円
技術学会支部組織問題
- 4 技師会野球大会 (群馬県)8月25日
本県優勝
第1回戦 2*2 茨城県 2回戦 2*2 栃木県
決勝戦 4*2 山梨県
- 5 技術学会代議員追加選出
竹谷理事
- 6 JMCP93年実行委員会組織
大会長 三代忠 独協大病院
実行委員長 山下緑 NTT病院
副々 蒨利彦 済生会横浜市南部病院
副々 森克彦 日本医大付属第一病院
副々 小沢薫 栃木県立がん検診センター
- 7 横浜市救急医療センター
開設10周年記念



みんなで考える、みんなが考える

事務所拡張資金継続募金のお願い

技師会事務所は狭過ぎる、実際に事務所を利用なさった方は実感として理解されていると思います

購入に関する具体案も出さず会誌等でお願いをして来ましたが今回執行部案として

- 1 現在の事務所は交通が便利で有るなどで移ることは考えない
- 2 現在の事務所の隣室を確保出来れば理想である
- 3 同ビル内の床面積の広い部屋の購入
- 4 現在のビル内に3500万円位の物件がある

まだ具体案としては物足りない感がありますが、先月までの募金額730万円ではまだまだ話しを進める段階で有りません会員の理解を得、会を発展させる為にも御協力おねがいたします。

募集金 1口 1000円(2口以上)

募金振り込み先

銀行利用

郵便局利用

地区委員利用

横浜銀行伊勢佐木支店

振替 横浜

7-3018

千葉まで

普通 314-1069122

技術学会県支部のありかたについて

本年の技術学会代議員会に於いて技術学会神奈川支部と県技師会の活動、予算等が明確な区別が無く助成金などの問題あり本部より会を分離して運営するよう指導を受けました

本会は前総会に於いて技師会、技術学会を分離せず活動することを可決して現在に至っているが、今年の県総会は技師会、技術学会を分離して行ったが予算及び活動報告等は同一の報告であった

栗田会長より次回会誌には技師会と技術学会が分離し現在に至った経緯及び今後本会が進むべき進路に関する事を掲載する予定です

会費一つにしても大変な事です一人一人考えて見てください。



— 川面の旅 —

杏林堂 林病院
木戸 幾三郎

『地区だより』担当のYさんより今回の趣味のページを頼まれた。「カヌーのおもしろさや”それなら俺もカヌーをやってみようかな”と皆が思うようなことを書いてよ」と言われ、うーんと考え込んでしまった。たしかに僕はカヌーというものをやってはいるが、そのおもしろさを言葉にせよと言われると、学生時代に国語の成績が悪かったせいもあるけれど、うまく言えないのだ。苦しまぎれに「んなもんやってみなけりゃ解からんよ」と言ってしまったのが本音である。

なんでもそうだけれど、論より証拠、口で説明するよりは・・・なのだと思う。特にカヌーのような感覚的なものは・・・それでも敢えて言うなら、川の好きな人に、のんびりしたい人に、ジェットコースターが好きな人、冷たい水の中に落ちて大丈夫というマゾっ気のある人に、僕はカヌーをやってみたらオモシロイカモヨと言いたい。

皆さんはカヌーというと激流下りを想像するでしょうけど、それはあくまでもカヌーの一部であって全てではないのです。人はどんな生き方をしてもいいように、どんなカヌーをしてもいいんです、と僕は思うのです。

カヌーで特におもしろいといったら、やっぱり川下りでしょうね。それも短い距離ではなく、何泊かする川旅。カヌーにテント、寝袋、ナベ、ヤカン、メシ、酒など積み込んで川を下り、気に入った河原があったら上陸してテントを張り宿泊。焚き火をしながらメシを食い、川の流れる音を聴きながら酒を飲んでノンビリする。朝起きてポーとして、日が高くなってきたら荷物をまとめて出発、それを何日かやるわけです。河原での生活、つまり、河原乞食になると云うわけです。そして川を流れ～～。これでリッパな流れ者のフロ一者の出来上がりです、ははは。

カヌーをやってみると水鳥達の目になります。水鳥の目の高さで風景が見えるわけで、いつも見慣れた景色が、まったく違った形に見えるんです。それもゆっくりと景色が流れていくのです。カヌーをやっていると、とても川が気になり始めます。川の水量、河原のゴミ、釣り師が残した弁当のカス、テグス、素人の目から見ても解かる無駄な河川工事などムカッ腹が立つ時があります。以前、酒匂川を足柄大橋から飯泉橋まで下ったのだけれど工事は多いわ、水量はないわ、水は汚いわで散々でした。

2度とこんな川下るモノか!と思ったんですが、台風なんか来て酒匂川が荒れてると、「おっ!こりゃおもしろそーだ!」などと思ってしまうんです。ときどき河口や飯泉橋のあたりでベーシックテクニクの練習をしているので、見かけたら僕だと思って下さい。

カヌーは川だけでやるモノではありません。湖でもいいし、海でもOKです。もちろんそれ専用のカヌーが必要ですが・・・。現在僕の持っているカヌーは3艇で、シーカヤック(海用、5m、23kg、アメリカ製)、カナディアン・カヌー(川や湖など、4.5m、25kg、アメリカ製)、ファルトボート(折りたたみ式カヌー、4.2m、15kg、カナダ製)です。それぞれ楽しみ方があるので使い分けるのです。カナディアン・カヌー

なら湖や川でノンビリと。ファルトボートだったら、背負って電車に乗り遠くまでブラブラと、シーカヤックだったら、夏場の釣り師でいっぱい川を避けて、大海原でユーユーと、てな具合です。特に今はカナディアン・カヌーを中心に乗っているんだけど、これは安定感はあるし、2人で乗れるし、「おじゃうさん、ちょっと風変わりな、でえとなど如何でせうか？」とさそえるし、良いのではないかと思います。是非彼女のいない人はカヌーをはじめてカワユイ娘をひっかけましょう。且し、現在恋人のいる人には、あまり勧められません。何是なら、カヌーには1人用と2人用があるんですが、基本的には、カヌーと云うモノは自由なモノで、水の上をアメンボの様にスイスイと動く事が出来てるんです。自分が行きたい方に行けるし、そこにいたければいたでいいし。ところが2人乗りになると、「俺はこっちへ行きたいんだ!」「アタシはあっちへ行きたいのよ!」とケンカになるし、川下りになると、前の人と後の人の呼吸が合わないと必ずと言っていい程、沈（カヌー用語でひっくりかえる事）します。そして、だんだん仲が悪くなっていくのですしかし、カヌーをやって何が一番おもしろいかと言うと、人が沈する程おもしろいことはないんです。したがってこういう人々が我々を楽しませてくれるのです。

僕がよく行く川は栃木から茨城の水戸まで流れている那珂川、天竜川の支流の気田川です。何泊かするのにちょうど良い川の長さだし、きれいな川です。近場の相模川や酒匂川はショッチュー行きますけど、これはカヌー仲間とあそんだり、テクニクを練習したりするだけで、泊まると云う事はありませんね。第一水が汚い。特に相模川は寒川の堰の下から河口までは下れたもんじゃ無い。病気になっても別にええよ、と云う人だけにオススメします。上流の方はまあまあですね。酒匂川と云えば、さっき言ったように、こりゃ駄目!川下りなんて無理ね!あと湖なんかじゃ、富士五湖や千葉の亀山湖なんか、芦ノ湖はイジワルな連中がいっぱいいて駄目!海だったら、根府川あたりから、真鶴半島を回って塩浦あたりまで海岸線にそって行く。帰りは134号線を左手に見て、渋滞をながめながらのバドリング・・・と言ったところでしょうかね。

まア、皆さんも一度バドルを握って川に漕ぎだしてみたいはいかがでしょうか?きっと僕が今言った事より遙かにおもしろく、今までとはちがった景色が広がり、川をもっと良く知る事が出来るでしょうから。



施設紹介

医療法人 邦友会 小田原循環器病院

昭和56年に創設されて以来、当院も10年になりますが、昨年、X線CTも導入され、設備も充実し、地域社会に責任の持てる心臓疾患、腎疾患の予防、診断、治療、運動療法を一貫して行い、良質な医療サービスの提供を目指す病院といえます。

当放射線科も常勤技師2名、非常勤技師3名、クラーク1名で業務に当たっています。技師としての日常業務の内容は、一般撮影、X線TVを使った注腸、胃透視など、X線CT、そして専門病院ならではのシネアンギオ装置を使って、火曜日は心臓血管カテーテル検査が2件、PTCAが2件、木曜日は、心臓血管カテーテル検査5～6件を行っております。それ以外にも、緊急に心筋梗塞の患者がきた場合は、昼夜を問わず、PTCR～PTCAの治療に、医師、看護婦、臨床工学士と共に当たります。PTCAの治療技術は、年々進歩をみせ、様々なカテーテルや、バルーンが開発され、目覚ましいものがあります。それに伴って、良質な画像も一段と要求されるようになり、その対応に苦慮しております。

次に、放射線科の設備を紹介いたします。

X線TV-東芝-KXO-850 DT-AV

全身CT-東芝-Xpeed

一般撮影装置-東芝-KXO-1250

断層撮影装置-東芝-DT-LGI-2

シネアンギオ装置-東芝-KXO-2050

ポータブル-東芝-

<自動現像機> 一般用-フジFPM9000-45sec

シネ用-コダック-NX2A

オートチェンジャー(大角)コニカ

以上、簡単に当院の内容をご説明いたしましたがお近くにお出での折には、是非お立ち寄りください。



春の学術講演を終えて

去る7月5日（金）足柄上病院4階会議室にて春期学術講演会が会員38名の出席で開催されました。私見ではありますがご報告します。

講師は富士メディカル株式会社 取締役 高野 正雄先生に（X線写真……私の雑感）という演題で、先生が日頃身近に感じている事を雑談風という形で、講演されました。

先生は「私の疑問」として2つ挙げました。1つは今の放射線技術学会とは一体何だろう、もう一度見直す必要があるのではないかと指摘されました。

今の技術学会の現状はオープンではなく閉鎖的であること、参加する人はメカ、ユーザの立場という意識がお互いにあり、対等な立場ではないと指摘されました。私見的な見方をすれば、豊富な専門知識と数段高い実験系、膨大な資料を持っているメーカーの技術者に比べ、放射線業務が本業である技師は大きなハンディがあり、それを学会という同じ土俵で相撲を取ることに問題があると思われる。物理や化学分野の学会と同一レベル視で、医学界の学会を比較する事が難しいのは【臨床】は理論的、定量的に解明出来にくい面が多々あるからだ。しかし、我々技師も学問的見地にたってみると、まだ追及不足があることは否めない。今の技術学会には色んな問題が山積みされているが、地道でも学会の質の向上を目指し、より良い方向へ改善されることを願う。

X線の撮影がこれから何10年役に立つかというのが2つ目の疑問で、最近のX線診断の位置付けが昔とだいぶ変わってきており、従来X線で診断されていた検査が、超音波、MR、内視鏡、血液検査、バイオテクノロジーの出現進歩により置き換えられつつあり、画像診断としてのX線診断のステータスが以前より落ちてきているのではないかと指摘されました。

そして、これからの医学分野はエレクトロニクス、コンピュータの占める割合が益々多くなり、技師もそれらの時代の波に対応を迫られてくるのは必須であり、X線診断の分野もアナログからデジタル画像に変わりつつあり、特に画像処理では、我々放射線技師も従来の技術の他に「ガラスアルファ」としてデジタル画像を加工処理をし、診断に役立てる技術が必要されてくると示唆されました。

先生はこの講演全体を通して強調されていたのは、明日の診療に役に立つ事を目標にして技師は実際の臨床的な立場から、メーカーは専門の技術者の立場として、対等に議論をし研究し合う構えが大切であると述べられました。

先生の研究の考え方、人生論などをエピソードを交え興味深くお話しされたことは大変有益で、これからの私どもを裨益すること非常に多大であり、本当にありがとうございました。

講演後、千安会長挨拶の中で、自分の持っている長年のノウハウやテクニックというソフトが、だんだんハードに置き換えられゆく今、技師として残されゆく技術とは心豊かな感性を研ぎ澄ませ「患者との対話しかない」！！
最終的にX線診断として残り続けるのは骨の写真でないか「骨で始り骨しか残らない」という極論でしたが、どちらの言葉にも私は考えさせられました。

学術担当（坂本、高野）

地引き網 報告

さる8月4日、二宮海岸にて行なわれた地引き網は、天候にも恵まれ、参加人数は大人63名、子供30名と、お陰様をもちまして大盛況の内に無事おえることが出来ました。網を引く重さの大半はクラゲによって占められたものでしたが、とれたてのきらきら光るような、しらすの味は格別のものでした。子供も大人も必死になって網を引く様子も、西湘地区の技師会ならではの光景で、家族的な技師会だなと実感いたしました。常日頃、いかに家族サービスに時間を割けないかが伺える様に思えたのは、私だけでしょうか・・・？

また、潮風の中でのバーベキューもスタミナ満点で、皆様におかれましても、暑さ厳しい夏を、十分乗り切れたものと思います。汗びっしょりになって、鉄板の肉や野菜と格闘していただいた会長を初め、皆様に紙面を通して深く感謝申し上げます。

今年始めて福利厚生委員として、準備をさせていただきましたが、次回のために、「もっと、こんな企画もしてみたらよいのでは・・・」というご意見がありましたら、遠慮なくお寄せ下さい。

福利厚生委員（奥村・大内）

秋の学術講演会

編集後記

恒例となりました秋の学術講演会を今年も11月頃に予定しております。

今回の演題は、最近特に普及率が上昇しつつあり、皆様も関心を持っておられる『MR』についての講演を予定しております。

MRのこんなところがわからない、ここをもっとよく知りたい等、皆様の要望に沿った講演会にしていきたいと思っておりますのでご希望がありましたら、学術担当までお知らせください。

今回の『地区だより』の原稿の半分は中1の息子がワープロで入力してくれました。

仕事に忙しい父親を見かねた息子の愛？実は、1枚550円のバイト代欲しさのためでした。とはいえ、おかげで今回は大分、楽をさせていただきました・・・

この次は、校正と記事の割り付けを覚えてもらって下請けに出そうかと、思っております。 「とく」

